

次の書籍に訂正および留意事項がございますので、下記をご参照ください。

みなさまにはご面倒をおかけいたしますこととお詫び申し上げます。

- 書名 『入試数学 解法のセオリー』
- 対象となる版 2025年 5月 20日発行 初版第1刷
- 内容

箇所		正
p. 72	解答(3) 9行目	「よって,」の前に「このとき確かに(左辺)=(右辺)であり, 与式は恒等式となる.」を追加してください.
箇所		正
p.330	1行目 左段	$2 \cdot 1/6 \cdot 44 \cdot 15 \cdot 89 + 45 \cdot 21$ は $2 \cdot 1/6 \cdot 44 \cdot \underline{45} \cdot 89 + 45 \cdot 21$ です.
箇所		留意事項
p.62	★複素数の相等 枠内 証明	数学2の教科書では「複素数の相等」は定義のような扱いで, 証明は掲載されていません(定義なので証明できないものとなっています). 本書の証明は教科書で「複素数の相等」の後に登場する「複素数の四則演算」を用いた証明となっており, 教科書における順序を逆に辿った説明であることにご注意ください.